

はじめに

昨今、障害福祉サービスは、制度が整備されてきたことにより充実しつつあり、様々な障害についての認知度も向上してきました。しかし、福祉制度のはざまに置かれている人たちや、その特性への理解が進んでいないことから福祉サービスが届きにくく、安心して豊かな地域生活を送ることが難しい状況にある方も少なくありません。その人たちを取り巻く福祉ニーズとは何か、どのような支援が必要とされているのか。社会福祉法人グロー（GLOW）が行う、地域ケアサービス推進事業（滋賀県補助事業）は障害特性による生きづらさやニーズに応じた支援のあり方を探り、モデル的な実践を行ってきました。

今年度は、芸術鑑賞や食をテーマとしたワークショップをきっかけに、「盲ろう」「発達障害」「知的障害」の方々のアクセシビリティ（社会参加のしやすさ）という視点で支援のあり方について研究しました。昨年度に引き続き、障害当事者や支援者と協力して企画を考えました。今回は、文化芸術を通じて障害のある人が活動に参加しやすくなるための実践をするるとともに、昨年度から実施している芸術鑑賞会で取り組んできた工夫や合理的配慮を他の場面に広める試みを行いました。地域における様々な場面へのアクセシビリティの向上に繋げていくという試みです。

また、同事業では、現代において糸賀一雄氏の思想に通底する実践を行っている方々の考えや活動を「SHIGA-FUKU」というウェブサイトで発信しています。障害福祉領域だけでなく、共生社会の実現に繋がる様々な取り組みについて、幅広く活躍されている実践者を取材しました。今回実施したアクセシビリティの研究と取り分け関係が深いインタビューを併せて掲載しています。

誰一人取り残さない共生社会づくりに向けて、制度のはざまにある人とともに考え、誰もが社会参加しやすい状況を作ることを目指し、それぞれの地域や場において相互理解が深まることを期待します。

2021年3月

社会福祉法人グロー（GLOW）～生きることが光になる～
法人本部企画事業部 ケアサービス推進課

令和2年度滋賀県地域ケアサービス推進事業報告書 目次

はじめに

第1章 地域ケアサービス推進事業について

- (1) 事業目的と実施内容について 4
- (2) 社会参加のしやすさの要因について 5
- (3) 本書における「アクセシビリティ」について 5

第2章 「食」をきっかけに集う

盲ろうの人、視覚障害の人と楽しむ「触×食」のワークショップ

- (1) 背景・目的 6
- (2) 方法 6
- (3) アンケート結果 9
- (4) 考察 12

インタビュー 宮本麻里（子育て応援カフェ LOCO 代表） 14

第3章 障害当事者・支援者・地域の人たちとの共働

- (1) 障害当事者・支援者・地域の人たちとの共働 18
- (2) 目で見るだけではない鑑賞方法を考える 19
- (3) 障害当事者・支援者・専門家へのヒアリング 20
- (4) 地域へのアクセシビリティの拡充 21
- (5) 地域店舗の声 23

インタビュー 伊東正樹（滋賀県立視覚障害者センター統括主任） 24

第4章 「芸術」をきっかけに集う

第1節 盲ろうの人、視覚障害の人と楽しむ“ランチと芸術鑑賞会”

- (1) 背景・目的 28
- (2) 方法 28
- (3) アンケート結果 31
- (4) 考察 34

第2節 アートをきっかけにいろんな感じ方をシェアしよう！

- (1) 背景・目的 36
- (2) 方法 36
- (3) アンケート結果 39
- (4) 考察 42

インタビュー 中川佑希（オフィスゆうき代表） 44

まとめ 48